

がん悪液質が mFOLFIRINOX 療法の血液毒性発現に及ぼす影響

済生会熊本病院では、医学の発展のため患者さんの診療情報等を使用し、本研究を実施しております。ご質問や利用停止等のお申し出は、「問い合わせ先」へご連絡下さい。

研究の目的と方法

切除不能膵癌の標準治療である mFOLFIRINOX 療法は、副作用に骨髄抑制が高頻度に認められるため、薬剤の慎重な用量設定が必要です。しかし、膵癌は進行が早く、治療開始時に食欲不振や骨格筋の減少等の“がん悪液質”という病態を来している方も散見されます。がん悪液質は、化学療法の効果を弱めたり、副作用の増強、生存率にまで影響を及ぼしたりすることが知られています。

この研究では、mFOLFIRINOX 療法における副作用発現とがん悪液質との関連性を調査することを目的としています。

診療を通じて得られた情報を使用しますので、新たな検査や調査をお願いすることはありません。

研究の対象となる方

2015年1月～2023年7月に当院で進行・再発膵癌の1次治療もしくは2次治療で mFOLFIRINOX 療法を施行された方

使用する試料・情報

年齢、性別、身長、体重、既往歴、膵癌ステージ、治療歴(薬物療法、手術)、パフォーマンスステータス、血液検査(Alb、CRP、血算、血液像、Cre、AST、ALT、T-bil、Na、K、Cl、TP)、投与量(オキサリプラチン、イリノテカン、5-FU)、UGT1A1 遺伝子多型など

使用開始予定日：2023年9月25日

研究予定期間

2023年9月20日～2024年3月31日

個人情報の取り扱い

研究情報は、許可された研究者のみが使用します。研究成果を学会等で発表予定ですが、個人が特定されないよう氏名等を削除した情報や集計結果を用いますので、プライバシーは守られます。

[研究の情報管理責任者] 薬剤部 白尾祐樹

[当院の個人情報管理責任者] 院長 中尾浩一

研究への協力について

研究目的にご自身の診療情報等を利用されることを希望されない場合は、研究対象とせず、利用を停止すると共に、収集した情報等も可能な限り削除します。本研究への協力は患者さん治療とは関係が無く、ご協力いただけない場合も患者さんに不利益が生じることはありません。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、関連資料を閲覧することが出来ます。

問い合わせ先

済生会熊本病院 薬剤部 白尾 祐樹

住所：熊本市南区近見5丁目3番1号 電話：096-351-8000(代表)

